

日産車体株式会社 個人投資家向け会社説明資料



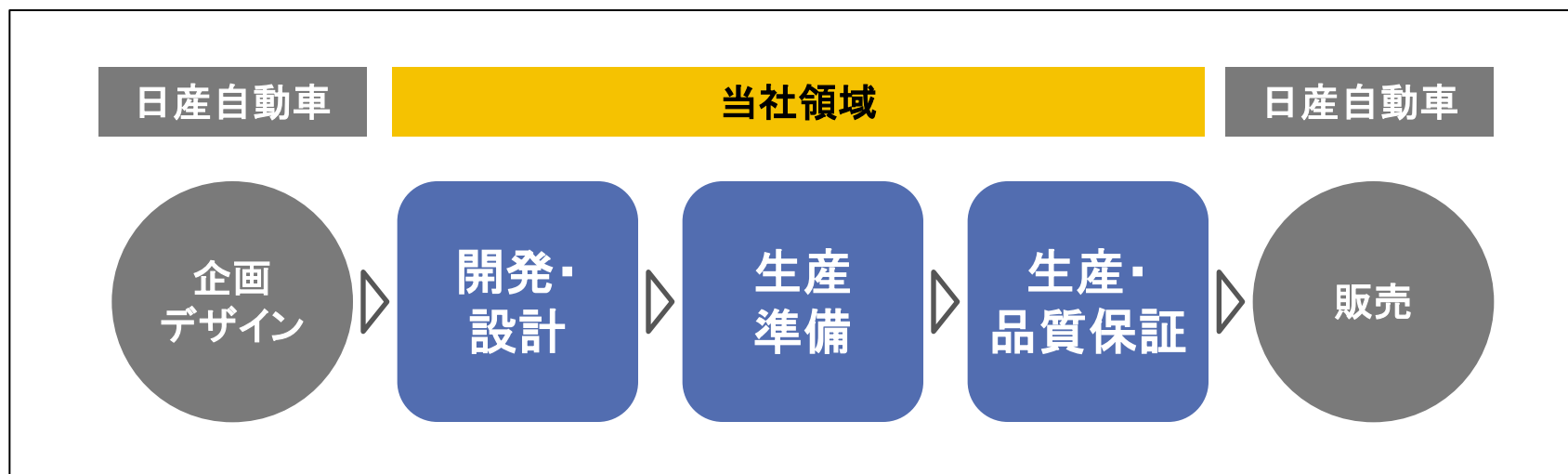
日本のモノづくりを世界へ

2016年5月

Outline



日産車体は、
開発から生産までを担う完成車メーカーです



日産グループの中で「LCV・MPV」の分野を中心に、
グローバルに活躍する完成車メーカーとして事業を展開しています

LCV: Light Commercial Vehicleの略。小型商用車

MPV: Multi Purpose Vehicleの略。多目的乗用車という意味でミニバンやSUVの総称

グループのご紹介

日産車体グループ



湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点が主軸です

日産車体(株)

日産車体九州(株)

設立	1949年	2007年
事業内容	各種自動車の開発から 品質保証まで	自動車および その部分品の製造・販売
従業員数	1,861名	885名
生産拠点	神奈川県平塚市	福岡県苅田町

湘南工場



日産車体九州工場



(2016年3月31日現在)

グループ会社

日産車体マニファクチャリング株式会社

▶ 日産車体のプレス部品の製造

日産車体エンジニアリング株式会社


▶ 日産車体および日産車体九州の設備保全と物流

 **AWK** 株式会社 オートワークス京都

▶ マイクロバスとトラックの製造と特装車の架装

日産車体コンピュータサービス株式会社

▶ 情報システム構築、ネットワーク構築などのIT関連サービス

 **プロスタッフ** 株式会社

▶ 人材派遣から職業・人材紹介および各種アウトソーシング

沿革

2010年に日産車体九州の新工場が稼働開始。
2014年には湘南地区の再編を完了。

年 月	社 歴
2015年	1月、車両生産を終了した湘南工場第1地区の土地売却
2014年	3月、新本社を第2地区に竣工・湘南再編完了
2012年	湘南工場第1地区での車両生産を終了、湘南工場第4地区での車両生産を第2地区へ集約、湘南工場の車両生産体制の再編を完了
2011年	当社が開発した「NV200」がニューヨーク市の次世代タクシーに選定
2010年	日産車体九州稼働開始
2007年	子会社「日産車体九州株式会社」設立／生産累計1,500万台達成
1992年	生産累計1,000万台達成
1969年	フェアレディZ生産開始
1951年	日産自動車(株)と提携
1949年	当社前身 新日国工業(株)設立



▶ 高級ブランド「インフィニティ」を生産
(日産車体九州)



インフィニティ QX80

▶ LCVでグローバル展開をリード



NV200 NY市 タクシー提案モデル

▶ ミニバンで現在の基礎を構築



▶ 日産車体のルーツを作ったフェアレディZ



グループのご紹介

主な生産車



湘南工場



NV200
VANETTE
NV200 バネット



AD/AD EXPERT
AD / AD エキスパート



Infiniti QX80
インフィニティ QX80



PATROL
パトロール:Y62



WINGROAD
ウイングロード



NV200
NV200 タクシー



ELGRAND
エルグランド



QUEST
クエスト



PATROL
パトロール:Y61



PATROL PICKUP
パトロール ピックアップ



NV350
CARAVAN
NV350 キャラバン

オートワークス京都



CIVILIAN
シビリアン



ATLAS
アトラスF24

特長



完成車メーカーとしてのDNAを活かした、 多くの特長を持っています

■LCVを中心とした多車種少量生産の一大拠点(湘南工場)



▶モノコック車



▶フレーム車

■2010年に稼動開始した日産グループの国内“最新鋭工場” (日産車体九州)



▶ローラーヘミングによるエンジン
フードの生産



▶新塗装技術

■LCVで海外展開事業の基盤を強化



■グループ内での一貫生産により、 高品質な特別仕様車をスピーディに提供



2015年度 連結決算概況

主な2015年度の成果



1. 生産台数の拡大に向けた取り組み

- NV350キャラバンの継続した台数の伸長。国内市場向け特装車強化、クラス初の自動ブレーキシステムの搭載。海外市場ではフィリピン向け輸出開始、南アフリカ向けマイクロバスが伸長。
- 中近東市場向けのパトロールが継続して好調。スポーツモデル「nismo」生産開始。

2. 品質向上への取り組み

- 日産車体九州で生産するInfinitiQX80がJDパワー社の北米初期品質調査でLarge Premium SUVセグメントで2年連続No.1を獲得。同じくQuestがMinivan部門でNo.1 を獲得(2回目)
- 日産グループ独自の初期品質調査で湘南工場で生産するAD、NV200バンネットがトップクラス継続。グローバル日産の工場別ランキングでも湘南工場は上位継続。
- 開発、購買、生産の部門が一体となり品質に関わる課題を迅速に解決していく「NS-Q1活動」の推進。市場品質情報についてお客様や販売店との直接対話活動の強化。1台の車両データを生産から市場まで追跡できるよう一元管理。(トレーサビリティの向上)。

2015年度 通期決算

決算サマリー



北米向けの販売台数を伸ばすが、新興国、中近東などは停滞傾向。前期の湘南工場の売却益等の特殊要因もあり、増収減益となる

売上台数

北米向け「インフィニティ80」「クエスト」などの増加により、9.2%増の21.4万台

売上高

売上台数の増加により7.2%増の5,094億円

営業利益

台数増、合理化等により11.2%増の114億円

親会社株主に帰属 する当期純利益

湘南工場売却益の減少等により、49.2%減の79億円

設備投資

マイナーチェンジによる商品力強化、生産設備の合理化及び改善などの投資を中心に約64億円

2015年度 通期決算

業績ハイライト

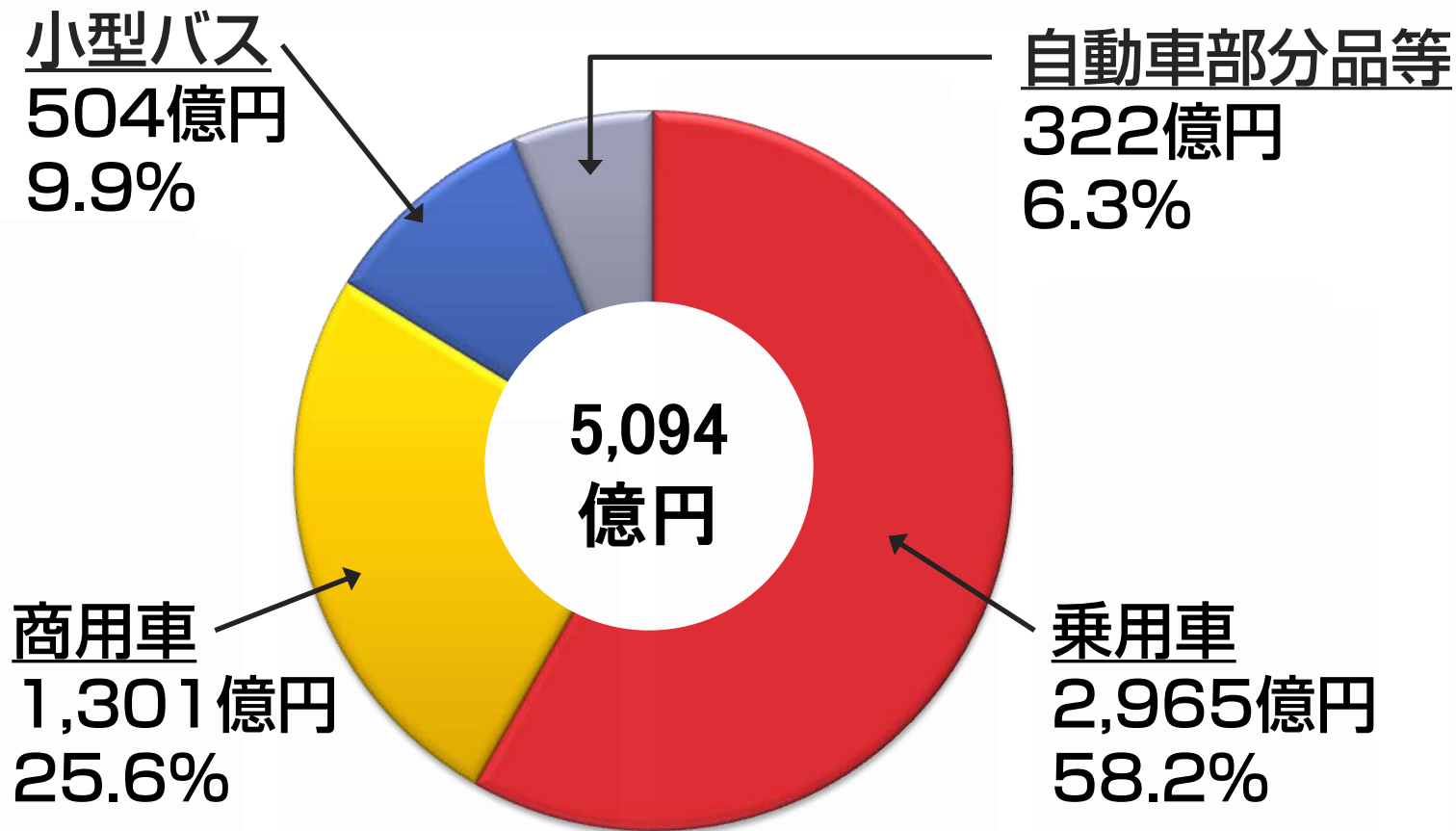


	2014年度 (2015/3)	2015年度 (2016/3)	増減額	増減率
売上高	4,753	5,094	341	7.2%
営業利益	103	114	11	11.2%
経常利益	110	119	8	7.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益	156	79	▲77	▲49.2%
売上台数(千台)	196	214	18	9.2%

単位: 億円

2015年度 通期決算

品目別売上高構成比



2015年度 通期決算

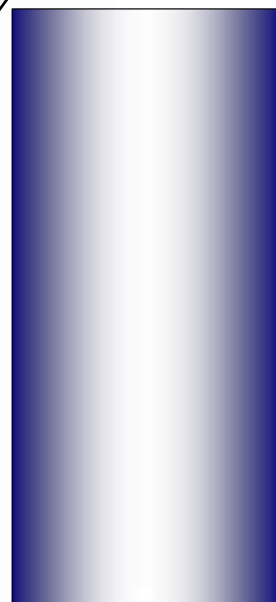
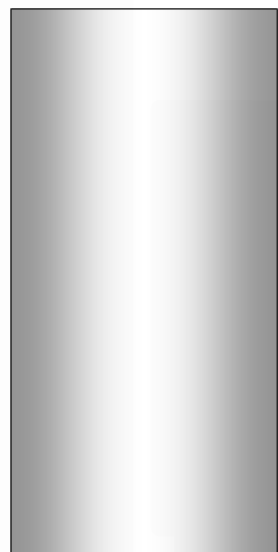
売上台数



売上台数は前期比9.2%増の214千台

(千台)

196 → 214



‘14年度

‘15年度

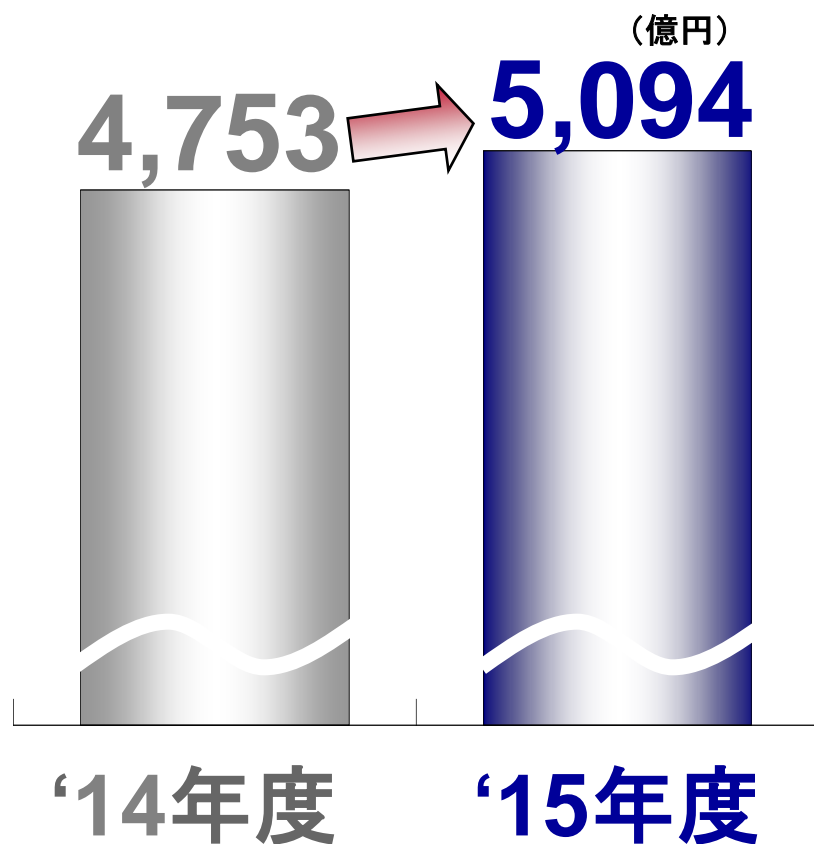
(千台)

	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	91	103	12.6%
商用車	85	86	1.1%
小型バス	20	25	28.4%
合計	196	214	9.2%

2015年度 通期決算

売上高

売上高は前年同期比7.2%増の5,094億円



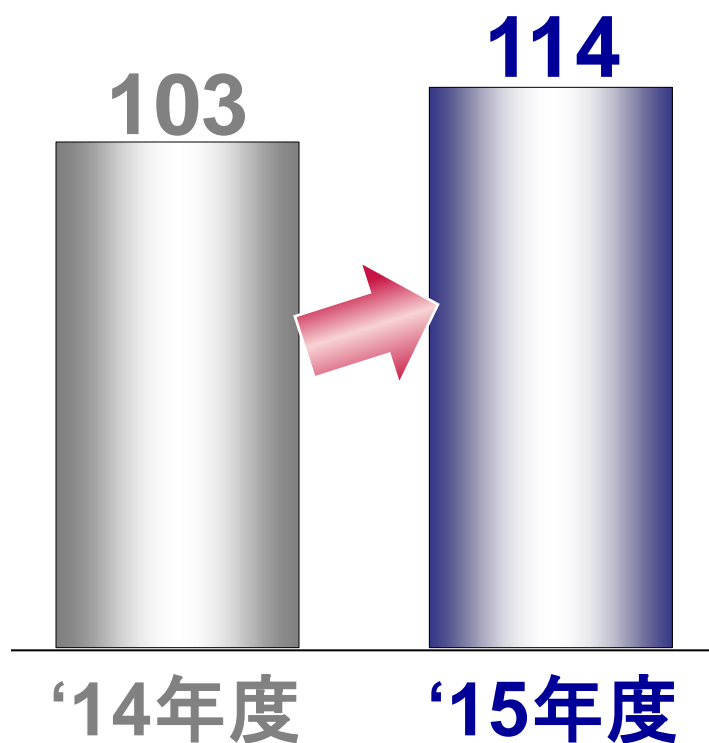
2015年度 通期決算

営業利益／経常利益

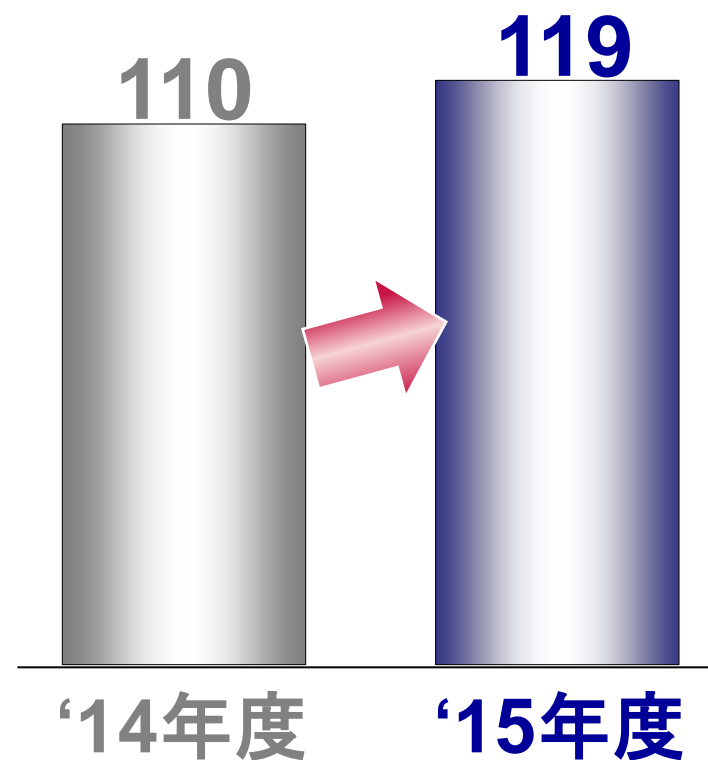


営業利益／経常利益とも前年同期を上回る

営業利益 (億円)

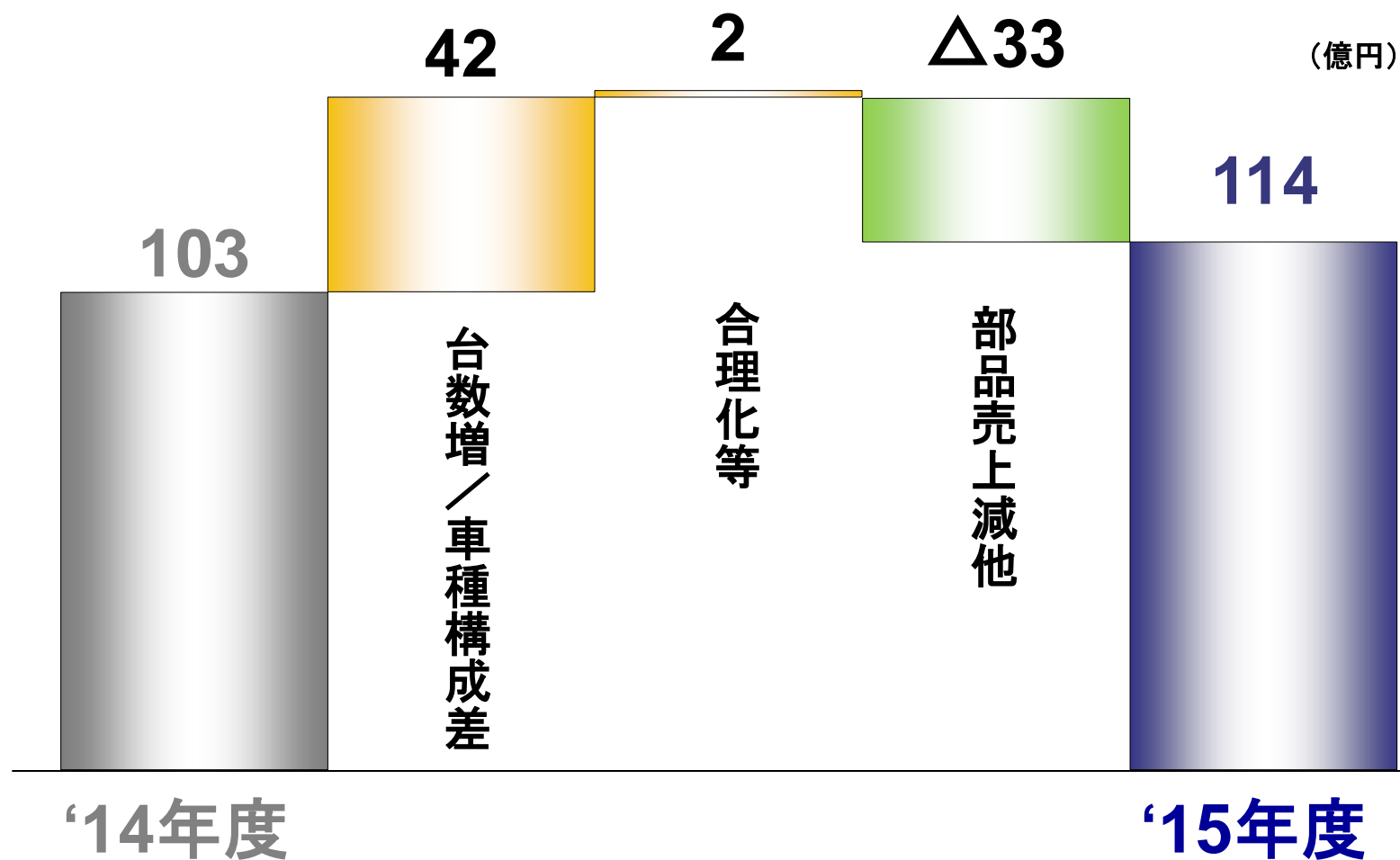


経常利益 (億円)



2015年度 通期決算

営業利益の増減要因

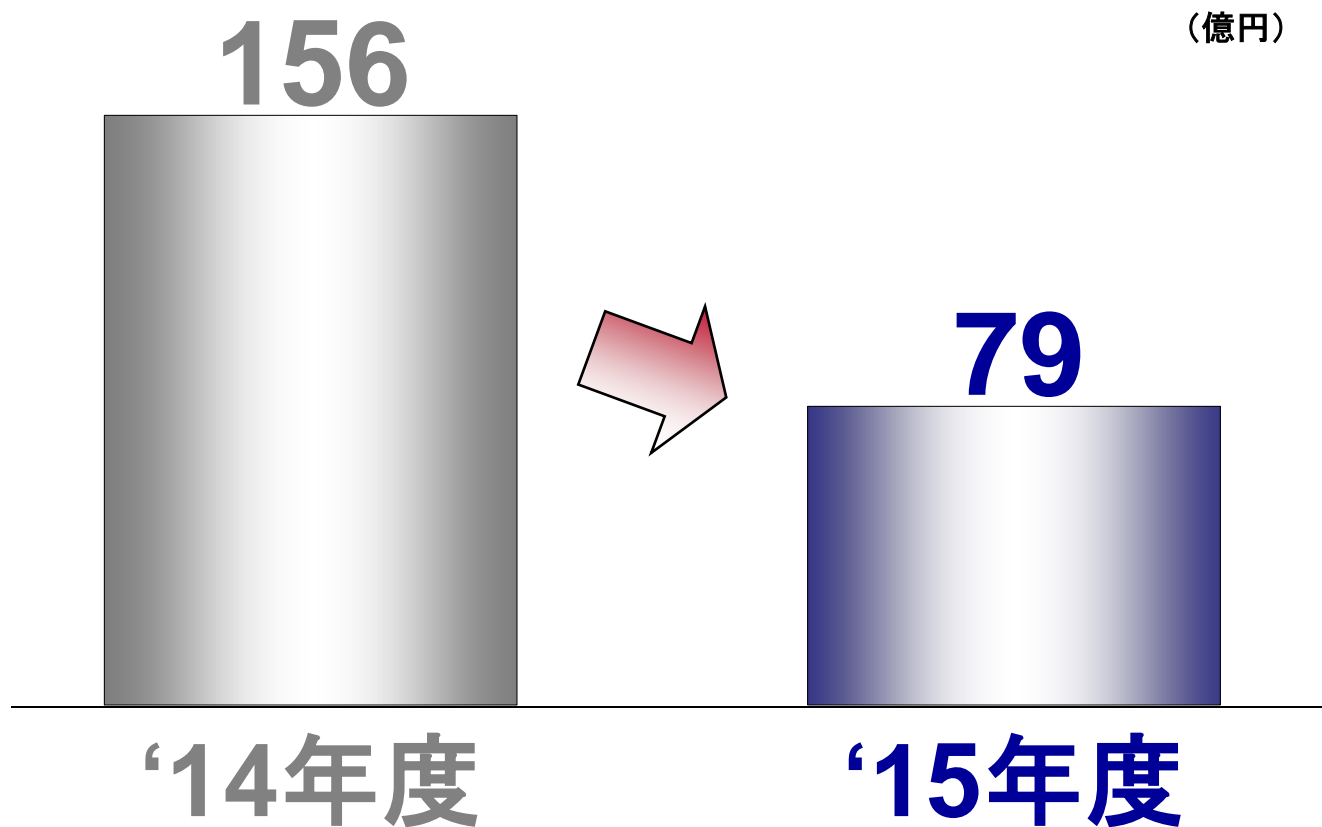


2015年度 通期決算

親会社株主に帰属する当期純利益



親会社株主に帰属する当期純利益は前期比49.2%減の79億円



2016年度 連結業績見通し

2016年度の主な取り組み



＜環境変化＞

- 国内市場の停滞
- 中国・主要新興国での経済成長鈍化
- 原油価格の不安定

＜主な取り組み＞

日産車体九州

1. QCTの更なる向上による「総合力ベンチマーク工場」
2. 日産圏グローバル生産拠点の「クオリティリーダーとして定着」
3. 新型アルマーダ、V6エンジン搭載パトロールの確実な生産開始

湘南工場

1. 生産集約を活かした「コスト競争力の強化」
2. 日産圏グローバルでの「トップクラスの品質」継続
3. タイムリーに市場要望に応える「フレキシブルなLCV生産」工場

2016年度 業績見通し

2016年度の業績予想



国内市場の停滞及び中国・新興国経済の減速など、引き続き不透明な状況が予想される中、前年ベースを計画

	2015年度 (実績)	2016年度 (計画)	増減額	増減率
売上高	5,094	5,100	6	0.1%
営業利益	114	115	1	0.1%
経常利益	119	120	1	0.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	79	80	1	0.8%

単位: 億円

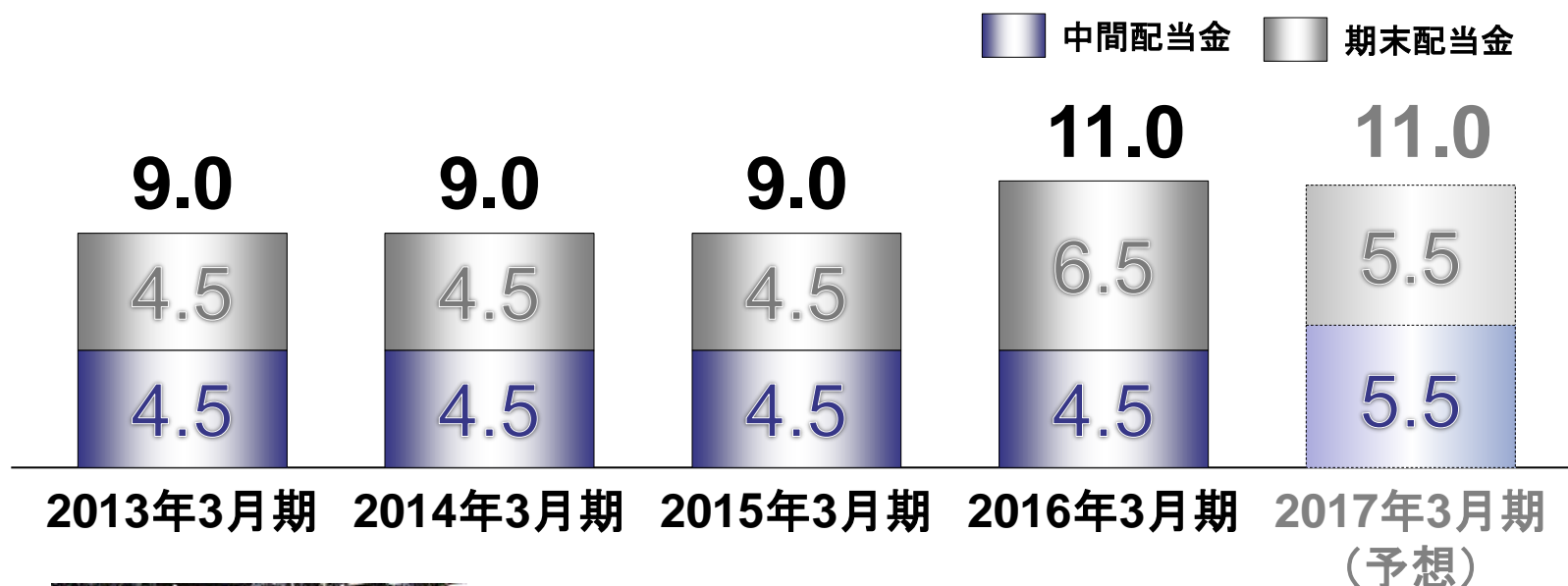
株主還元

株主還元

配当金



持続的成長に向けた適切な内部留保を行うと同時に、
継続的な安定配当を実施



■ 株主向け工場見学

毎年、定時株主総会終了後に工場見学を実施し、
多車種混流生産ラインなど最新の設備をご案内しています。